

2021年度 DXを推進していく実践力アカデミー 実績報告書

1. 開催目的

これまでソフトウェアテスト研究会では、システムの利用形態によって求められるテスト品質の違いを議論し、またアジャイル開発で必要なテスト自動化ツール、クラウドテストなどの調査も行ってきました。

今年度は、開発者視点の「モノ的なシステム品質」から利用者視点の「コト的なサービスの品質」への転換をテーマに、新たなテストビジネスモデルまで踏み込んだディスカッションします。

変化の激しい時代に、システムに求められる要件も、テストに求められる要件も逐次変化します。

またシステムの在り方そのものも変化します。

変化の時代において、ソフトウェアテスト研究会での議論が、皆さまの今後に少しでもお役に立てればと思います。

開催実施日 以下の6日

- ・第1回 2021年 7月13日(火) 10:00-17:00 合宿 都立日比谷図書館
- ・第2回 2021年 7月30日(金) 15:00-17:00
- ・第3回 2021年 10月1日(金) 15:00-17:00
- ・第4回 2021年 11月26日(金) 15:00-17:00
- ・第5回 2022年 1月28日(金) 15:00-17:00
- ・第6回 2022年 3月3日(木) 15:00-17:00

2. 研究会参加メンバー

参加者は以下の5名(順不同)(敬称略)

株式会社オカムラ	深山 しげり
日本デイベレイク株式会社	菅家 伸大
日本ハムシステムソリューションズ株式会社	片山 貴史
インテル株式会社	糺原 晃紀
アイエックス・ナレッジ株式会社	港 孝良

3. 研究会各回の内容概要

【第1回】 都立日比谷図書館 合宿

アプリシエイティブ・インクワイアリー (Appreciative Inquiry) とは

アプリシエイティブ・インクワイアリー (Appreciative Inquiry) の習得と自らの目標の設定を考えています。

企業において、実践力を付けつためには、周りを巻き込む力が必要です。

AIによって、個人と組織との関係を向上させ手法を習得します。

自らの目標を設定

会社からのミッションも含め、各自の目標を設定いたします

これらをワークショップで習得した後、各回のアカデミーで目標に向けた行動実績を

ZOOMによってアクティブコーチングを行い、自らの行動の気づきを得ます。

全6回によって、実践力を身につけます。

【第2回】

KGLC シートを使った各自へのアクティブコーチング

目標に対して以下の項目で気づきを記載するワーク

Keep

Grow

Support

Challenge

Learn

Term

【第3回】

KGLC シートを使った各自へのアクティブコーチング

セッション

DX とは

ITは、機械と機械を繋ぐ道具



効率化

DXは、人と人を繋ぐ道具



ベネフィット

IT化とDXは本質違うもの

IT化は生産性向上が目的でありDX化は変革が目的

企業に変革をするときはどんなときか？危機が迫っているときに変革は起こる

危機を感じない企業は変革できない

トランスフォームするのは難しいので、新規事業をはじめた方がよい。

【第4回】

・DX コンピテンシーについて

DX コンピテンシーを備えたリーダー

トランスフォーメーションを厭わない組織文化

DX を実装するテクノロジー

DX を実践できるコンピテンシーを保有した人材の開発

問題解決志向なギャップアプローチと未来志向なポジティブアプローチ

- ・ 復習
- ・ アプリシエイティブリーダー
- ・ ポジティブ感情をビジネスに活かす

- チェックアウト

【第5回】

KGLCシートを使った各自へのアクティブコーチング
セッション

DXの肝がトランスフォームなら……。なぜ、人や組織は変わらないのか
組織が変革出来ないのは、組織の免疫があるからである

【第6回】

KGLCシートを使った各自へのアクティブコーチング
セッション

- ポジティブ感情が「関係の質」を良くする
- 失敗の悪循環モデル（結果の質からスタートする）
- 「関係の質」からスタートすると好循環サイクルが回る
- 関係の質を上げるための方法とは 適材適所を見つけることであるが適材適所の分析がされていない
- 適材の行動特性診断
- 適所の職場診断をすべき
- DXを推進するリーダーを育成するのではなく、DXを推進するリーダーを探す